

日本原子力発電株式会社東海低レベル放射性廃棄物埋設事業所  
 前回までの審査会合における指摘事項管理表

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
1	第190回 (H29.3.17)	資料2	低透水性土壌について、設定値や設定の考え方を説明すること。 (議事録P11,12)	「資料2-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H30.5.31)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
2	第190回 (H29.3.17)	資料2	地下水流動について、基本的な地下水位の考え方や柱状図など申請書に載っている以外のデータや東海第二発電所の防潮堤の設置も含め説明すること。 (議事録P12~15、P16,17)	「資料2 水理」で説明。(H30.7.31)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
3	第190回 (H29.3.17)	資料2	遮水シート及び排水路について、具体的な性能、耐久性、効果を説明すること。 (議事録P17,18)	「資料2 添付資料4 別添1」で説明。(H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)
4	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	I. 外部事象の網羅性について、管理期間終了後の埋設処分特有の観点から検討し、シナリオで考慮すべき事象を網羅的に抽出し、丁寧に説明すること。 (議事録P36~38)	「資料2 規則第9条(異常時の放射線障害の防止等)への適合性について」P88で説明。(H30.4.26)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
5	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	I. 外部事象の網羅性の「除外基準」並びに「自然現象の選定理由」、II. 土地利用による人間活動の網羅性の「選定理由」及びIII. 評価すべき事象の選定の「代表シナリオの選定」等について、定量的な説明、数値根拠等の記載を補強すること。 (議事録P41~44)	I. 外部事象の網羅性(自然事象): 第6条関連を資料2 別添資料 P7- P41で説明。(H29.12.4)  I. 外部事象の網羅性: 「資料2 規則第9条(異常時の放射線障害の防止等)への適合性について」P88-104で説明。 II. 土地利用による人間活動: 資料2 P113-118で説明 III. 評価すべき事象の選定: 資料2 P129-139で説明。 (H30.4.26)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)  第9条(異常時の放射線障害の防止等)
6	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	I. 外部事象の網羅性について、津波と洪水の選定結果の相違に関し、考え方を説明すること。 (議事録P42)	「資料2 別添資料P29及びP43-P45」で選定結果の考え方を統一したことを説明。(H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)
7	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	I. 外部事象の網羅性の除外基準について、そのハザードを感知して排除できるとかではなく、緩慢事象であり、その影響が及ぶまでには十分に減衰している等の理由として整理すること。 (議事録P44~46)	「資料2 規則第9条(異常時の放射線障害の防止等)への適合性について」P88-104で説明。 (H30.4.26)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
8	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	Ⅲ. 評価すべき事象の選定について, 基本シナリオ, 変動シナリオ, 自然事象シナリオ, 人為事象シナリオの区分の考え方を説明すること。 (議事録P46, 47)	「資料2 規則第9条(異常時の放射線障害の防止等)への適合性について」P129で説明。(H30.4.26)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
9	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	Ⅲ. 評価すべき事象の選定について, 自然事象が通常起こり得ない事象であることを説明すること。 (議事録P47, 48)	「資料2 規則第9条(異常時の放射線障害の防止等)への適合性について」P129-139で説明。 (H30.4.26)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
10	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	外部事象の6条で選定する事象と9条で選定する事象があるが, 9条のシナリオ選定については, 高レベルや中深度処分の長期の評価と違う部分のシナリオを掘り下げて補強すること。 (議事録P49, 50)	「資料2 規則第9条(異常時の放射線障害の防止等)への適合性について」P129-139で本日説明。	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
11	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	核種の抽出はORIGENを基に行っているが, 線量評価ではJENDLの値を使用しており, 整合性のある説明とすること。 (議事録P9, 10)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」P2で説明。 (H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
12	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	生成の可能性等の確認結果を基に25核種を除外しているが, 除外理由である「生成量が少ない」、「超長半減期核種」について判断基準を具体的に説明すること。 (議事録P11)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」P38第2表で説明。 (H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
13	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	スケーリングファクタ法, 平均放射能濃度法を用いることの考え方を説明すること。 (議事録P12, 13)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」参考3で説明。 (H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
14	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	Cl-36のスケーリングファクタが200となっており, 他に比べて大きくなっている根拠を説明すること。 (議事録P14)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」参考3で説明。 (H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
15	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	クリアランスの基準値として, 法令やIAEAで載っていないものについて, ヨウ素の0.01ではなく0.1を代入している理由を説明すること。 (議事録P17)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」参考1で説明。 (H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
16	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	除外された26核種について線量評価が実施されているが, 当該26核種の評価に用いた各パラメータの妥当性について根拠を用いて説明すること。 (議事録P18~20)	核種選定関連を「資料1 主要な放射性核種の選定について」P6で説明。(H30.2.27)  その他は, 「資料3-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。(H30.6.29)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)  第9条(異常時の放射線障害の防止等)
17	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	選定したシナリオの代表性について, シナリオの内容やパラメータを含め, 判断した理由を説明すること。 (議事録P20, 21)	「資料3-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H30.6.29)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
18	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	今回除染効果の考え方を変更しているが、恣意的な印象を与えないために、保守側を見るべきところ／見なくても良いところを明確にし、一貫したロジックで説明すること。 (議事録P23, 24)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」P150第27表で説明。(H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
19	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	ロジックの一貫性を理由に10核種に変更しているが、スケーリングファクタから見ても新たに除外したNiはかなりの量があると思われる。寄与がないというだけで除外してよい理由を説明すること。 (議事録P24, 25)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」参考2で説明。(H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
20	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	海産物摂取の相対重要度について、P22ではC-14が1番目、K-40が2番目に高くなっているが、P23ではトリチウムが2番目になっている理由を説明すること。 (議事録P25)	(第202回資料1-2の誤記)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
21	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	重要度分類の計算で、 $\alpha$ 核種の子孫核種は考慮されているのか確認すること。 (議事録P27)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」P149第26表で説明。(H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
22	第213回 (H29.8.22)	資料1	グレーデッドアプローチのための竜巻によるリスク評価については、施設のクレジットがなくても5mSv以下であることを示すように評価を見直すこと。 (議事録P13)	「資料2 添付資料5 別添2 P9-P27」で説明。(H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)
23	第213回 (H29.8.22)	資料1	竜巻影響評価へのフジタモデルの適用性を説明すること。 (議事録P14, 15)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
24	第213回 (H29.8.22)	資料1	容器の閉じ込め機能等、附属施設の機能を期待しないことの妥当性を説明すること。 (議事録P18, 19)	「資料2 P1-P4」及び「添付資料1」で説明。(H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)
25	第213回 (H29.8.22)	資料1	雷に対して避雷針を設置しない理由を、根拠等を用いて説明すること。 (議事録P 20)	「資料2 添付資料9」で説明。(H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)
26	第213回 (H29.8.22)	資料1	飛来物からの防護や飛散防止として、周辺からの影響(例:松林の枝)や固縛等の方法も含め説明すること。 (議事録P20, 21)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
27	第213回 (H29.8.22)	資料1	飛散防止に関連するプラスチックシートやフレキシブルコンテナが、竜巻によって破損しないことを説明すること。 (議事録P21)	「資料2-2 第8条(遮蔽等)」で説明。(H30.5.31)	第8条(遮蔽等)
28	第213回 (H29.8.22)	資料1	非常に強い風により、砂がどの程度動くのか説明すること。 (議事録P21)	「資料2 添付資料4 P2-P7」で説明。(H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
29	第213回 (H29.8.22)	資料1	森林火災については、火災影響評価ガイド以外を用いる場合は、評価方法の妥当性を説明すること。 (議事録P22)	「資料2-2 第8条(遮蔽等)」で説明。(ガイドを用いた評価を実施) (H30.5.31)	第8条(遮蔽等)
30	第213回 (H29.8.22)	資料1	飛来物の評価については、衝突したときに壊れない下限値を設定し、その上で固縛等の対策を取るなど、論理を構築すること。 (議事録P23)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
31	第213回 (H29.8.22)	資料1	砂地であることを踏まえ、ひょうによる廃棄物埋設地への影響を説明すること。 (議事録P24)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
32	第213回 (H29.8.22)	資料1	中間覆土について、締固め圧等の定量的な説明をすること。 (議事録P25)	「資料2 添付資料4 P11」で説明。(H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)
33	第227回 (H29.12.4)	資料2	廃棄物埋設施設の安全性の確保について、飛散防止も含めて、広い範囲での安全機能の考え方を説明すること。 (議事録P11～17, 58)	「資料3 廃棄物埋設施設へのグレーデッドアプローチの適用について」で説明。(H30.1.29)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)
34	第227回 (H29.12.4)	資料2	保全や修繕等の事後のソフト対応について、今後保安規定等で約束してもらうことになるので、頭出しをして、保全を行う条件等を含めて資料に記載すること。 (議事録P39～40)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
35	第227回 (H29.12.4)	資料2	覆土として用いる材料やその特性を説明すること。また、締固めと移行抑制機能、遮蔽の機能との関係を説明すること。 (議事録P41～43)	「資料4 第10条(廃棄物埋設地)」で説明。(H30.7.31)	第10条(廃棄物埋設地)
36	第227回 (H29.12.4)	資料2	旧原研の透水性の試験結果について、本施設で用いる低透水性として扱えることを説明すること。 (議事録P44)	「資料2-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H30.5.31)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
37	第227回 (H29.12.4)	資料2	観測記録について、平年値の期間(1981年～2010年)に限定してハザードを設定し影響評価を行っていること考え方を説明すること。 (議事録P45～48)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
38	第227回 (H29.12.4)	資料2	塩淡境界等も含めた全体的な流動場の変動と埋設施設への影響について説明すること。また、東海第二の防潮堤のルート変更に伴う影響についても説明すること。 (議事録P51, 52)	「資料2 水理」で説明。(H30.7.31)	
39	第228回 (H29.12.25)	資料2	航空機落下について、有視界飛行方式民間航空機の落下確率における小型固定翼機及び小型回転翼機に、堅固な建屋のない廃棄物埋設地に実用炉と同じ0.1を適用できる理由を説明すること。基本的に、廃棄物埋設施設が非保守側になるものは、説明を記載すること。 (議事録P15, 16)	次回以降の審査会合で説明する予定。	

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
40	第228回 (H29.12.25)	資料2	全体的なコメントとして、抽象的な記述が多いので、審査ができるように記載を拡充すること。 (議事録P19)	今後の審査資料に反映。	
41	第228回 (H29.12.25)	資料2	東海第二のタービンミサイルの影響は関心事項なので、東海第二側のタービンミサイルの評価で、位置的、あるいは方向的に影響がないことを示すこと。 (議事録P19, 20)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
42	第229回 (H30.1.29)	資料2	ガンマ線の評価として、11核種から4核種を選んでおけば十分であることの説明資料を追加すること。 (議事録P16)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」参考-9で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
43	第229回 (H30.1.29)	資料2	構内輸送や廃棄物を取り扱っている間のスカイシャイン線に関する評価について、補足資料等で評価を行わなくても問題ないことが分かるようにすること。 (議事録P19)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」参考-6で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
44	第229回 (H30.1.29)	資料2	コードの持つ保守性については、定量的に比較して保守的になっていることを示すこと。 (議事録P20)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」参考-2で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
45	第229回 (H30.1.29)	資料2	埋設済みの区画の隣を掘削した場合の横からの線量評価について、最終評価結果にどの程度の影響を与えるのかを示すこと。また、保安の措置についても合わせて検討すること。 (議事録P21, 22)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」参考-5で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
46	第229回 (H30.1.29)	資料2	評価によってQADとANISNの使い分けを行っている理由等を説明すること。 (議事録P22)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」参考-7で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
47	第229回 (H30.1.29)	資料2	遮蔽の機能に関する安全設計としての設計方針(遮蔽厚、密度等)を記載すること。 (議事録P23)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」P II -3～-5で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
48	第229回 (H30.1.29)	資料2	作業の流れの中で、どういった管理区域(汚染又は線量のみ)が、どのタイミングで設定されるのかをはっきりさせること。 (議事録P 24)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」参考-10で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
49	第229回 (H30.1.29)	資料3	安全上重要な施設の判断の評価に関して、各外部事象の想定最大のハザードが、今回の事象で包含されることの説明を追加すること。 (議事録P28, 29) 外部事象については、個別事象ごとに妥当性を説明すること。 (議事録P 32)	「資料3 廃棄物埋設施設へのグレーデッドアプローチの適用について」添付資料1で説明。 (H30.2.27)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
50	第229回 (H30.1.29)	資料3	施設を守り切れるとした説明で、追加の防護の有無について説明すること。また、修理での対応もあり得るが、その程度も含めた説明をすること。 (議事録P28～31)	「資料3 廃棄物埋施設へのグレーデッドアプローチの適用について」添付資料2で説明。 (H30.2.27)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)
51	第229回 (H30.1.29)	資料3	定置作業中と埋設後では状況が全く異なるので、定置段階と保全段階を分けて検討すること。 (議事録P31, 32)	「資料3 廃棄物埋施設へのグレーデッドアプローチの適用について」添付資料2で説明。 (H30.2.27)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)
52	第229回 (H30.1.29)	資料3	設計事象で用いるハザードの大きさとして、気象庁の平年値をもとに設定している考え方を説明すること。 (議事録P32)	「資料3 廃棄物埋施設へのグレーデッドアプローチの適用について」添付資料2で説明。 (H30.2.27)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止等)
53	第229回 (H30.1.29)	資料3	ソフト対応については、期待する機能や自然現象による影響、その際の対応など、順序立てて説明すること。 (議事録P34, 35)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
54	第231回 (H30.2.27)	資料1	平均放射能濃度に対して、機器ごとの放射能濃度がどの程度ばらつきがあるかを説明すること。 (議事録P12)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
55	第231回 (H30.2.27)	資料1	平均放射能濃度を出す際に、含有放射能や物量の異なる金属とコンクリートを一緒にして平均することの妥当性を説明すること。 (議事録P12～15)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
56	第231回 (H30.2.27)	資料1	建設居住シナリオは、掘り返す場所の放射能濃度によって保守性／非保守性が変わってくる。金属とコンクリートを分けて考える必要がないことを説明すること。 (議事録P12～15)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
57	第231回 (H30.2.27)	資料1	線量評価においては放射エネルギーを大きくすると保守的になるが、相対重要度による核種選定においては非保守的となることも考えられる。選ばれるべき核種に漏れがないことを説明すること。 (議事録P16)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
58	第231回 (H30.2.27)	資料1	スケーリングファクタを求めるグラフを書くときのデータ処理の仕方を説明すること。 (議事録P17)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
59	第231回 (H30.2.27)	資料1	クリアランスレベルの数値のない核種について、0.1を使うロジックを説明すること。 (議事録P40, 41)	次回以降の審査会合で説明する予定。	

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
60	第231回 (H30.2.27)	資料3	グレーデッドアプローチについては、先行例をよく確認し、それに沿った形で適用すること。 (議事録P33~39)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
61	第231回 (H30.2.27)	資料3	外部事象の規模については、周辺の原子力施設で想定されている規模と整合を図ること。 (議事録P33~39)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
62	第232回 (H30.3.26)	資料1	地盤の評価におけるパラメータとして、どの定数を、どの様に使用したのかを記載すること。 (議事録P13)	「資料3-2 第3条(廃棄物埋設地の地盤)」で説明。(H30.6.29)	第3条(廃棄物埋設地の地盤)
63	第232回 (H30.3.26)	資料1	支持地盤のdu層のせん断抵抗値について、1本のボーリングデータで評価されているが、ばらつきがあることを考えるとデータが足りないと思認識している。 (議事録P14, 15)	「資料3-2 第3条(廃棄物埋設地の地盤)」で説明。(H30.6.29)	第3条(廃棄物埋設地の地盤)
64	第232回 (H30.3.26)	資料1	操業時の荷重として、実際の廃棄物埋設地での操業時の荷重がどの程度になるのかを説明すること。 (議事録P15, 16)	「資料3-3 第4条(地震による損傷の防止)」で説明。(H30.6.29)	第4条(地震による損傷の防止)
65	第232回 (H30.3.26)	資料1	設置地盤の支持性能の評価は、廃棄体の埋設されている箇所以外(アクセス道路等)についても、適合していることを示すこと。 (議事録P16)	「資料3-2 第3条(廃棄物埋設地の地盤)」で説明。(H30.6.29)	第3条(廃棄物埋設地の地盤)
66	第232回 (H30.3.26)	資料1	圧密沈下の評価について、データが少なく、数字の算出方法からも誤差等が生じえる中で、評価結果が判定値と近いところにある。それらを踏まえ、評価が妥当であることを説明すること。 (議事録P18, 19)	「資料3-2 第3条(廃棄物埋設地の地盤)」で説明。(H30.6.29)	第3条(廃棄物埋設地の地盤)
67	第232回 (H30.3.26)	資料1	du層の透水係数の設定方法(サンプル数含む)について説明すること。 (議事録P20)	「資料2 水理」で説明。(H30.7.31)	
68	第232回 (H30.3.26)	資料1	審査資料は、結論に至った理由をきちんと記載すること。また、各種試験についても、試験結果だけではなく、結果から何が言えるのかを記載すること。 (議事録P21, 22)	「資料3-2 第3条(廃棄物埋設地の地盤)」で説明。(H30.6.29)	第3条(廃棄物埋設地の地盤)
69	第232回 (H30.3.26)	資料2	埋設地のすべり安定性の確認については、どの様は評価方法、データに基づいて確認したのか記載すること。また、最終覆土の施工方法や管理方法等との関係性も含めて記載すること。 (議事録P27, 28)	「資料3-3 第4条(地震による損傷の防止)」で説明。(H30.6.29)	第4条(地震による損傷の防止)
70	第232回 (H30.3.26)	資料2	原地盤はボーリング等で評価できるが、埋設後に施工する最終覆土等は低透水性で設計するということもあり、土壌の特性が変わってくるので、それらに関して記載すること。 (議事録P27)	「資料3-3 第4条(地震による損傷の防止)」で説明。(H30.6.29)	第4条(地震による損傷の防止)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
71	第232回 (H30.3.26)	資料2	円弧すべりを1断面のみで評価しているが、他の断面も評価しているのであれば記載すること。 (議事録P28)	「資料3-3 第4条(地震による損傷の防止)」で説明。(H30.6.29)	第4条(地震による損傷の防止)
72	第232回 (H30.3.26)	資料3	津波の想定規模については、東海村の施設の審査事例を踏まえ、最も影響が大きいと想定されるL2津波を含め、再度検討すること。 (議事録P31～35)	「資料3-1 第5条(津波)」で説明。(H30.7.31)	第5条(津波)
73	第232回 (H30.3.26)	資料3	東海第二発電所の防潮堤の仕様見直しに伴う埋設施設への波及的影響の有無について説明すること。 (議事録P32)	「資料3-1 第5条(津波)」で説明。(H30.7.31)	第5条(津波)
74	第233回 (H30.4.26)	資料2	第二種埋設許可基準規則では、今回提案のあった津波による浸漬等、設計事象を超えた設定は要求していない。 (議事録P37, 38)	「資料2-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。(H30.5.31)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
75	第233回 (H30.4.26)	資料2	事故・異常の起因事象として考慮すべき外部人為事象等の選定においては、自然現象と外部人為事象との包含関係を説明した上で、外部人為事象(火災、地表面流)を抽出しないと記載すること。 (議事録P40, 41)	「資料2-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。(H30.5.31)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
76	第233回 (H30.4.26)	資料2	廃止措置開始以後における評価シナリオとは、埋設地から生活環境へ放射性物質が至る一連の事象の連鎖のことで、シナリオ選定の際はそれらシナリオに係わるパラメータが想定する期間に対してどのような変化(バリア性能の変化等)をするかを考慮した上で、一番可能性の高いシナリオを設定すること。 また、被ばく経路の抽出に当たっては、放射性物質が生活圏に出た後の被ばくについて、その土地の人間の生活を様式化して、考えられる経路について抽出すること。 (議事録P50～54)	「資料2-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。(H30.5.31)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
77	第233回 (H30.4.26)	資料2	トレンチ処分のように人間侵入に対して特段のバリアを設けない施設に対しては、人為事象(井戸掘削等)ではなく自然事象として整理すること。 (議事録P54～60)	「資料2-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。(H30.5.31)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
78	第233回 (H30.4.26)	資料2	地下水は常に山側から海に向かって流れることが前提となっているため、周辺の農地及び河川に流出しないことを詳細に説明すること。 (議事録P60, 61)	「資料2 水理」で説明。(H30.7.31)	
79	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	廃棄物の破損モデルの設定の趣旨及び評価に用いるソースタームを明確にすること。 (議事録P30, 31)	「資料2-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。(H30.6.29)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
80	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	6条の外部からの衝撃に対する防護と事故時事象に対して5mSvの基準を満足することの差が分かるように記載すること。 (議事録P33)	「資料2-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。(H30.6.29)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
81	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	廃棄物埋設地から移行する放射性物質の量の評価として、ミキシングセルモデルを用いているが、埋設地の中が均質ではなく、不飽和層の中におかれたものであり、モデルの扱いとして不適だと考える。例えば、鉛直一次元の不飽和浸透流解析と、それをもとにした鉛直一次元の移流拡散モデルを検討すべき。 (議事録P34, 35)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
82	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	検討している系は、均質ではなく、廃棄物、容器、充填砂、中間・最終覆土等、複雑な不均質な系となっているが、これを均質化して扱えることを説明すること。 (議事録P35)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
83	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	状態設定については、管理期間終了後においても覆土が崩壊しないための具体的な措置の説明をすること。 (議事録P35～39)	「資料4 第10条(廃棄物埋設地)」で説明。(H30.7.31)	第10条(廃棄物埋設地)
84	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	分配係数取得試験における、検出限界の扱いと分配係数の設定について、説明すること。 (議事録P39, 40)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
85	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	水酸化カルシウム溶液を使うことが、実際の現地の状況とあっていることの説明をすること。 (議事録P41)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
86	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	分配係数取得試験については、ブランク試験なども含め、詳細に確認ができるような記載にすること。 (議事録P42)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
87	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	帯水層の分配係数の設定において、コンクリート廃棄物からの影響を受けた水をどの程度考慮しているのか、説明すること。 (議事録P43, 44)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
88	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	分配係数の設定として、添付資料と第3-1表注7との関連が分かるように記載すること。 (議事録P45, 46)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
89	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	全てをシンプルにして保守的にやると実力値が分からなくなり、かつ保守性がどの程度か分からないまま進んでしまう可能性があり危険である。実力値と保守的な度合を理解した上で説明すること。 (議事録P46～48)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
90	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	シナリオの設定について、現在の土地利用計画に限定するのではなく、周辺の状況も考慮して、土地利用シナリオを検討すべき。 (議事録P49～52)	「資料2-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H30.6.29)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
91	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	東海村に漁業労働者がいないからシナリオとして排除しているが、周辺の港に水揚げされることも考えられるので、評価しなくてよい理由を説明のこと。 (議事録P52, 53)	「資料2-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H30.6.29)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
92	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	砂地だから建物はできないとしているが、トレンチは設置できるとしており、同じように建物も作れるはずなので、同様の観点でみていくべき。 (議事録P53)	「資料2-1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H30.6.29)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
93	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	濃縮係数などについて、核種毎に設定根拠の文献が異なっているが、それぞれの文献を用いた理由を説明すること。 (議事録P54)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
94	第235回 (H30.5.31)	資料2-1	年間浸透水量の設定に関連して、今回使用する覆土の材料、施工方法と覆土の透水係数等について説明すること。 (議事録P56)	「資料4 第10条(廃棄物埋設地)」で説明。(H30.7.31)	第10条(廃棄物埋設地)
95	第235回 (H30.5.31)	資料2-2	飛散防止に対する基本的な設計方針(容器等による飛散防止等)や覆土のスペック、施工方法を説明すること。 (議事録P68)	「資料4 第10条(廃棄物埋設地)」で説明。(H30.7.31)	第10条(廃棄物埋設地)
96	第235回 (H30.5.31)	資料2-2	飛散防止について、異なった自然現象の重畳を考慮すること。 (議事録P68~70)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
97	第235回 (H30.5.31)	資料2-2	想定する自然事象は、その土地によって決まるものであって、同じ地域にあるサイトによって異なるのはおかしい。津波についても周辺の原子力施設と同規模を想定すべき。 (議事録P70, 71)	「資料3-2 津波評価の考え方」で説明。(H30.7.31)	第5条(津波)
98	第235回 (H30.5.31)	資料2-2	雨水防止用テントの設計の考え方、機能について説明すること。 (議事録P72)	「資料4 第10条(廃棄物埋設地)」で説明。(H30.7.31)	第10条(廃棄物埋設地)
99	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	跡地利用シナリオの選定における生活様式、土地利用の考慮について、考え方を整理したスタンスペーパーを用意し、次回の会合で議論する。 (議事録P30~39)	「資料1-2 跡地利用シナリオ及び井戸水飲用摂取シナリオに対する考え方」で説明。(H30.7.31)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
100	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	井戸水飲用シナリオについて、井戸利用が将来にわたってないとは考え難いため、変動シナリオで評価すべきと考える。(議事録P39~44)	「資料1-2 跡地利用シナリオ及び井戸水飲用摂取シナリオに対する考え方」で説明。(H30.7.31)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
101	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	変動シナリオのパラメータの設定について、パラメータのばらつきの中で、どの様に設定したかを説明すること。 (議事録P44~47)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
102	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	状態設定として、覆土対策をしたからと言って永久に形状が維持されることは想定できない。設計と状態設定との関連で説明すること。 (議事録P44～47)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
103	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	変動シナリオについて、自然事象の重畳を考慮しているのであれば、考え方を記載すること。 (議事録P47, 48)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
104	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	パラメータについては、評価に用いるにあたっての不確実性も含めて、変動シナリオの中で考慮すること。 (議事録P48～50)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
105	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	容器内への水の浸入のように、現実で起こることと評価上の設定を比較して保守性を説明するのであれば、検討できる情報、説明が必要である。 (議事録P50～52)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
106	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	濃縮係数について、出典の文献が二つあるものについての使い分けや設定の考え方について説明すること。 (議事録P52～55)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)。	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
107	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	海水交換水量について、河川の流れを前提とした式の適用性や海での放出点など、追加の説明をすること。 (議事録P52～54)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
108	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	漁労の被ばく評価ではピークを全て足し合わせて評価値としているが、これまでの他の評価では経時変化を考慮したピークの値を評価値としており、整合させる必要がある。 (議事録P55, 56)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
109	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	P139のKDの値が間違っていると思われるので、確認すること。 (議事録P56, 57)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
110	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	P77の基本シナリオの地下水シナリオについて、移行媒体の水の流れの説明の中で、廃棄物自体及び容器には分配係数は見込まないとしているが、これは評価モデルの話なので、評価モデルの設定のところに記載した方が分かりやすい。 (議事録P57, 58)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
111	第236回 (H30.6.29)	資料3-1	分配係数取得試験について、初期濃度として元素濃度(例えばmol/L)を併記すること。 (議事録P58)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
112	第236回 (H30.6.29)	資料3-2	地質断面図について、地盤の支持性能等を評価している箇所の拡大図を示すこと。 (議事録P65)	「資料1-1 第3条(廃棄物埋設施設の地盤)」で本日説明。	第3条(廃棄物埋設施設の地盤)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
113	第236回 (H30.6.29)	資料3-2	du層のN値のばらつきを考慮した上で、1孔のN値(廃棄物埋設地の中の1箇所)で液状化判定を行うことの妥当性について説明すること。 (議事録P65~72)	「資料1-1 第3条(廃棄物埋設施設の地盤)」で本日説明。	第3条(廃棄物埋設施設の地盤)
114	第236回 (H30.6.29)	資料3-3	円弧すべりの地盤等の物性値として、評価値と参考値を記載しているが、参考値の位置づけなどの説明を追加すること。 (議事録P74)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
115	第236回 (H30.6.29)	資料3-3	P11 第6表の物性値一覧で、最終覆土、原地盤2、原地盤1で同じ数値を使っているが、評価モデルとしてこの値を使うのか、原位置の値を使うのか、説明を追加すること。 (議事録P74)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
116	第236回 (H30.6.29)	資料3-3	地盤では高をEL値で標記しているが、本資料ではTP値になっているので、統一すること。 (議事録P74)	「資料1-1 第3条(廃棄物埋設施設の地盤)」で本日説明。	第3条(廃棄物埋設施設の地盤)
117	第236回 (H30.6.29)	資料3-3	耐震重要度における評価について、評価シナリオに用いたモデルやパラメータを記載すること。 (議事録P75)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
118	第236回 (H30.6.29)	資料3-3	覆土の透水係数について、周辺土壌に比して透水性が大きくなるように施工するといった定性的な記載ではなく、施設検査をする観点から、定量的に示すこと。 (議事録P75, 76)	「資料4 第10条(廃棄物埋設地)」で説明。(H30.7.31)	第10条(廃棄物埋設地)
119	第241回 (H30.7.31)	資料1-2	基本シナリオは、廃棄物埋設地に類似した地質環境の近隣市町村で現在一般的に行われている生活様式に基づき、居住を含めて広く検討すること。 変動シナリオは、線量拘束値である300 $\mu$ Svと比較するシナリオであることを考えると、代表的個人の間活動として掘削や井戸を想定するのが国際的な考え方にも合うものである。 (議事録P22, 23)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)
120	第241回 (H30.7.31)	資料2	水位観測値だけでなく、透水係数、降雨観測値、地質構造、地質データ、海・陸の境界条件、水質、マスバランス、非定常の応答等を踏まえた総合的な水理場としての説明を行うこと。 (議事録P32~36)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
121	第241回 (H30.7.31)	資料2	水位測定孔間を埋める地質の情報や、補足的な解析を踏まえて他の流れはあり得ないことを合理的に説明すること。 (議事録P36, 37)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
122	第241回 (H30.7.31)	資料2	地下水中の化学成分として、地下水ダイアグラムを用いて説明すること。 (議事録P37)	「資料1 第9条(異常時の放射線障害の防止等)」で説明。 (H31.1.22)	第9条(異常時の放射線障害の防止等)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
123	第241回 (H30.7.31)	資料2	揚水試験をdu層でしか実施していないことの合理性を説明すること。 du層の揚水試験と単孔式透水試験の大小関係がAg2層にも適用できるとするならば、なぜそうなるのかそれぞれの試験について説明すること。 (議事録P37～39)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
124	第241回 (H30.7.31)	資料2	文献値を採用している地盤改良部の透水係数について、文献名を記載すること。 (議事録P39～41)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
125	第241回 (H30.7.31)	資料2	杭間の流動の計算について、透水係数の扱い方も含めて説明すること。 (議事録P39～42)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
126	第241回 (H30.7.31)	資料2	水位が廃棄物より下部にあるのが重要な前提なので、防潮堤設置による水位の上昇について説明すること。 (議事録P39～42)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
127	第241回 (H30.7.31)	資料2	塩淡水境界について、海水の波打ち際から境界を引くというのは乱暴すぎるので、現実的な検討をすること。 (議事録P43～46)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
128	第241回 (H30.7.31)	資料2	塩淡水境界に関する測定結果として、4S/mの判断基準のみで示しているが、測定データを示して説明すること。 (議事録P46)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
129	第241回 (H30.7.31)	資料2	薄い粘土層について、縦断方向の傾斜についての情報を示すこと。 (議事録P46, 47)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
130	第241回 (H30.7.31)	資料2	各地層が水平に分布しているとするならば、水位が西から東へ傾斜する理由について説明すること。 (議事録P46, 47)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
131	第241回 (H30.7.31)	資料3-1 資料3-2	許可基準規則では、影響の最も大きい津波を想定することを求めているので、茨城県の実施したシミュレーション結果のうち、最も影響の大きいと思われるL2津波を設定すべき。 (議事録P51, 52)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
132	第241回 (H30.7.31)	資料4	覆土については、移行抑制上重要な人工構築物と考えられるので、解釈第10条第2項への対応を記載すること。 (議事録P56～58)	「資料1 第10条(廃棄物埋設地)」で説明。(H30.11.15)	第10条(廃棄物埋設地)
133	第241回 (H30.7.31)	資料4	竜巻による飛散の防止対策として、廃棄物埋設地から100m以内の物品を移動するとしているが、100mの持つ意味を記載すること。 (議事録P58)	「資料1 第10条(廃棄物埋設地)」で説明。(H30.11.15)	第10条(廃棄物埋設地)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
134	第241回 (H30.7.31)	資料4	最終覆土について、材料特性や施工方法を具体的に示して、移行抑制の機能を満たす見通しがあることを示すこと。 (議事録P58～60)	「資料1 第10条(廃棄物埋設地)」で説明。(H30.11.15)	第10条(廃棄物埋設地)
135	第241回 (H30.7.31)	資料4	最終覆土の上面への碎石の敷均しについて、降水による流出等に対して碎石でカバーできる見通しがあることを示すこと。 (議事録P58～60)	「資料1 第10条(廃棄物埋設地)」で説明。(H30.11.15)	第10条(廃棄物埋設地)
136	第241回 (H30.7.31)	資料4	最終覆土がある場合とない場合で、水の浸透をどの様に考えていて、それが第9条の評価上どの様に扱われているのか説明すること。 (議事録P61, 62)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
137	第241回 (H30.7.31)	資料4	最終覆土として、透水係数が決して小さくない材料を選定しているが、移行抑制の機能がある根拠を示すこと。 (議事録P62)	「資料1 第10条(廃棄物埋設地)」で説明。(H30.11.15)	第10条(廃棄物埋設地)
138	第241回 (H30.7.31)	資料4	覆土の材料として示している土砂Bについては、乾燥密度の条件を満たせていないと思われる。具体的な施工方法を含め、条件を満たす見通しがあることを説明すること。 (議事録P64, 65)	「資料1 第10条(廃棄物埋設地)」で説明。(H30.11.15)	第10条(廃棄物埋設地)
139	第241回 (H30.7.31)	資料4	平常時の評価として、廃止措置開始後の移行シナリオの評価結果と同等となることを説明すること。 (議事録P65, 66)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
140	第241回 (H30.7.31)	資料5	地下水の測定する放射性核種の選定として、C-14等の影響が大きいものを適切に評価できる核種を選定していることを説明すること。放射化の場合、金属の中に存在しているものもあるので、実際にはあとから出てくるといった観点も含めて、H-3で十分なことを説明すること。 (議事録P70, 71, 75, 76)	「資料2 第11条(放射性管理施設)」で説明。(H30.11.15)	第11条(放射性管理施設)
141	第241回 (H30.7.31)	資料5	積算線量計の設置位置として、既設の周辺監視区域のモニタリングポストを代用しているが、4点を選んだ理由、また8方向を選ばない理由を説明すること。 (議事録P71, 72)	「資料2 第11条(放射性管理施設)」で説明。(H30.11.15)	第11条(放射性管理施設)
142	第241回 (H30.7.31)	資料5	東海の敷地内であり、スカイシャイン線・直接ガンマ線、バックグラウンド、フォールアウト、東海第二からの影響も出てくるが、それらの評価の仕分けについて説明すること。 (議事録P72, 73)	「資料2 第11条(放射性管理施設)」で説明。(H30.11.15)	第11条(放射性管理施設)
143	第241回 (H30.7.31)	資料5	地下水中の放射性核種のサンプリングについて、異常な漏えいというときにどういった範囲の漏えいを、どういったタイミングで検知することを考えているのか説明すること。 (議事録P74, 75)	次回以降の審査会合で説明する予定。	

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
144	第241回 (H30.7.31)	資料6	人工バリアがないこと以外に、覆土に対して、他に監視・測定する項目はないとする内容を記載すべき。 (議事録P82～85)	「資料3 第13条(地下水の水位等の監視設備)」で説明。 (H30.11.15)	第13条(地下水の水位等の監視設備)
145	第246回 (H30.11.15)	資料1	覆土について、移行抑制の観点からの記載が無いように見えるので、記載を見直すこと。 (議事録P8)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
146	第246回 (H30.11.15)	資料1	最善の建設・施工技術に関しては、JPDRの埋設施設の実績が最善とした理由を、判断のプロセスを含め説明すること。また、道路土工盛土工指針が、本施設に対して適用できることを説明すること。 (議事録P8～11)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
147	第246回 (H30.11.15)	資料1	劣化・損傷に関しては、締固め度90%以上であれば竜巻による飛散を防げることを説明すること。 (議事録P8～11)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
148	第246回 (H30.11.15)	資料1	最終覆土の材料特性や施工方法について、室内試験の結果までしか示していないが、現場ではばらつきが大きくなる等の違いができる。規制側が確認する管理値を含め、要求を満たす見込みがあることを説明すること。 (議事録P12～16)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
149	第246回 (H30.11.15)	資料1	覆土の施工にあたり、品質管理や施工管理を適切に行うことを記載すること。 (議事録P16)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
150	第246回 (H30.11.15)	資料1	最終覆土の上に砕石を敷均しているが、砕石の下の最終覆土表面の土砂の流出について、説明すること。 (議事録P25, 26)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
151	第246回 (H30.11.15)	資料1	降雨強度について、出典としている手引きに数値の記載が無い。根拠を丁寧に記載すること。 (議事録P26, 27)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
152	第246回 (H30.11.15)	資料1	後段規制である施設確認ができるように、土砂の選定や砕石の敷均しについて、確認すべき項目を明確にして記載すること。 (議事録P29, 30)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
153	第246回 (H30.11.15)	資料2	H-3をトリガーとして監視することとしているが、H-3に検出されるインベントリがあることや、検出できる測定精度があることを記載すること。 (議事録P37～39)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
154	第246回 (H30.11.15)	資料2	H-3で異常が検出された場合、次にどういふことをするのか。他の核種を測定するために必要となる設備の準備等を含めて記載すること。 (議事録P39～41)	次回以降の審査会合で説明する予定。	

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
155	第246回 (H30.11.15)	資料2	モニタリングポイントとして、北西の角を測らない理由等、測定箇所の考え方の記載を充実すること。 (議事録P41～43)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
156	第246回 (H30.11.15)	資料2	H-3は評価上の値が高くなっている可能性もあるので、実際にそれが測れるのか、H-3が先に出てくるのかは、今後放射能量の評価の中身を見ないと分からない。その観点も含めて補足説明をすること。 (議事録P43, 44)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
157	第246回 (H30.11.15)	資料2	核種の検出性については、濃度だけでなく、分離や検出の効率等との取り合いで総合的にH-3が良いことを説明すること。 (議事録P44～46)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
158	第246回 (H30.11.15)	資料3	最終覆土を人工バリアではなく、天然バリアとして位置付けている理由を説明すること。 (議事録P47～51)	「資料1-2 第13条(地下水の水位等の監視設備)」「最終覆土の位置付けについて」で本日説明。	第13条(地下水の水位等の監視設備)
159	第256回 (H31.1.22)	資料1	管理期間終了後の最終覆土の形状について、どの程度劣化があるのか、またはどの程度機能維持されるのかを、過去の事例やデータを用いて説明すること。 (議事録P22～25)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
160	第256回 (H31.1.22)	資料1	井戸水飲用摂取の評価について、埋施設からの核種の漏出が瞬時放出という非保守的な設定になっているので、シナリオにあった保守性の考え方を検討して、評価を見直すこと。 (議事録P25～28)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
161	第256回 (H31.1.22)	資料1	跡地での居住に関するシナリオで設定している客土の有無や厚さについて、事例を用いるなどして、妥当性を説明すること。 (議事録P28, 29)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
162	第256回 (H31.1.22)	資料1	海産物摂取の評価で支配核種となるC-14の分配係数について、現地の砂や地下水を用いた実験ではなく、文献値から設定している妥当性を説明すること。 (議事録P29～31)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
163	第256回 (H31.1.22)	資料1	分配係数の測定条件として示している元素濃度は、放射性の核種のmol濃度ではなく、試験に使っている元素のmol濃度で示すこと。 (議事録P31)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
164	第256回 (H31.1.22)	資料1	評価パラメータのうち飽和度について、現地土壌の測定結果から設定しているが、購入土などを用いる可能性のある中間覆土や充填砂にその値を用いることができる妥当性を説明すること。 (議事録P31～36)	次回以降の審査会合で説明する予定。	

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備考
165	第256回 (H31.1.22)	資料1	一般的な砂又は砂質土の含水比の変動幅を示しているが、これらの出典を示すこと。 (議事録P34, 35)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
166	第256回 (H31.1.22)	資料1	地下水移行評価の式(1), (2)で、実際に水が流れ、核種が吸着する砂の体積ではなく、廃棄物層全体の体積で割り、廃棄物からの核種の漏出や平均吸着係数を求めている妥当性を説明すること。 (議事録P36~40)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
167	第256回 (H31.1.22)	資料1	中間覆土の厚さをこれまでは0.2m以上と説明されてきたが、今回の評価では0.25mで計算している。どのように設定しているのか説明すること。 (議事録P40)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
168	第256回 (H31.1.22)	資料1	跡地利用の評価で、金属とコンクリートを埋設する区画を分けずに、混合して評価しているが、平均的に埋設する定置の管理を想定していないのであれば、偏りを考慮した評価をすべき。 (議事録P40~43)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
169	第256回 (H31.1.22)	資料1	経根吸収割合や市場係数について、設定に用いたデータが不十分なので、インターネットの情報も活用してデータを収集し、検討すること。 (議事録P43~45)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
170	第256回 (H31.1.22)	資料1	跡地利用経路の被ばく線量の評価について、再現計算ができないので、計算内容を確認すること。 (議事録P45, 46)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
171	第256回 (H31.1.22)	資料1	市場係数の設定に用いている厚生労働省の統計調査については、ある一日の調査結果であり、年間の値を示すものではないことが注書きされているので、適切な文献を使用すること。 (議事録P46)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
172	第256回 (H31.1.22)	資料1	年間降水量の浸透割合に関する変動設定について、JPDR埋設施設の測定結果から設定しているが、測定は3年間のみであり、データの測定期間として十分とは言えない。 (議事録P46, 47)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
173	第256回 (H31.1.22)	資料1	JPDR埋設施設の測定結果のグラフで、1999年の途中から浸透水量が0mmと1mmの間ぐらいで横一線になっているが、この間は測定されているのかを確認すること。 (議事録P47)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
174	第256回 (H31.1.22)	資料1	海岸活動の分配係数について、試験結果のND値を用いて設定しているが、ND値で計算すると実際より少なめの値になり非保守的なので、設定方法を検討すること。 (議事録P47, 48)	次回以降の審査会合で説明する予定。	